

# たまがわ

厚木市立玉川小学校  
校長 高澤 崇  
令和2年9月28日



## 衛生管理を徹底しながら、自校の特色を生かし、 本日からの玉川小は授業や行事に一層工夫します

校長 高澤 崇

### 2学期の主な対応「玉小の特色を生かしたwithコロナの学習と生活の充実」

(R2. 9. 28時点) ※状況により変更の可能性あり

#### 第5段階「自校の特色を活用した玉小流の授業・行事の工夫（9/28～）」

##### ◆玉小の現在を生かした取組 [◎衛生管理（感染予防・熱中症予防） ◎学びの保障の推進]

##### ◎感染予防策の実施と、小集団活動を含む授業の充実

- ・小集団活動を実施するときの配慮事項や参考例などの明確化  
配慮事項例 フェイスシールドの活用、活動時間の目安など  
参考例 小集団話し合い、理科実験、図画工作実習、家庭科実習（調理実習は慎重に）、体育（マットなど）等

##### ◎感染予防策の実施と、外部との交流の推進

- ・外部と交流するときの配慮事項や参考例などの明確化  
配慮事項例 検温記録、マスク着用、換気の徹底、距離の確保、フェイスシールドの活用 等  
活動例 玉フェス、農業体験学習、伝統文化学習、地域交流 等

##### ◎感染予防策の実施と、緊急時に柔軟に対応できる学校行事の企画と運営

- 手洗い・うがい・マスク着用、登校前検温等の継続……感染予防行動の習慣化の推進
- 除菌は教職員、清掃活動の一部は児童・教職員が実施……衛生管理・感染予防

#### 第4段階「衛生管理の徹底と授業・行事の工夫（8/19～）」

##### ◆玉小の特色を生かした取組 [◎衛生管理（感染予防・熱中症予防） ◎学びの保障の推進]

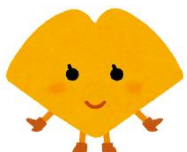
- ◎手洗い・うがい・マスク着用、登校前検温等の継続……感染予防行動の習慣化の推進
- ◎除菌は教職員、清掃活動の一部は児童・教職員が実施……衛生管理・感染予防
- ◎水分補給、エアコンの活用、体育の1・2時間目実施、登下校のマスク着用の緩和等……熱中症の予防
- 40分授業で5.5～6.5コマ日課の継続……授業時数増による学びの保障の推進
- 社会状況を踏まえ、慎重に段階的に実施……特色を生かした授業・行事の工夫
  - ・全員が前を向く授業と小集団活動や話し合い活動との組合せ（例 ペアで5分間→グループで10分間 等）
  - ・児童と保護者の交流活動の実施 ・地域交流活動や農業体験・伝統文化体験学習の実施
  - ・衛生管理を徹底したさまざまな学校行事の実施

勉学の秋、運動の秋が来ました。玉川小では、子どもたちが成長した姿が随所で見られた運動会を、みなさまのご協力のもと開催することができました。ありがとうございました。その際に強く感じたことは、あの運動会は玉小の特色を生かしたからできたということです。

そこで、本日からの玉川小は、自校の特色である「子どもたちの素直さ」「小規模であること」「家庭や地域と学校との連携」「豊かな自然」などを生かしながら授業や行事の工夫と充実に努めます。いわば「玉小流の工夫」です。3つの視点を設けました。



まず、「感染予防策の実施と、小集団活動を含む授業の充実」です。小規模校ということもあり、活動時の社会的距離の確保やマスクの着用などはこれまでも気を付けてきました。今後は、これに加えて、フェイスシールド（[次ページ参照](#)）の着用や活動時間の目安などをすることにより、2人～6人程度の話し合い活動や、理科・図画工作・家庭科などの実習（一部試行中）・体育のマット運動等を授業に取り入れ、子どもたちが学力をしっかりと伸ばすことができるように努力していきます。



次に、「**感染予防策の実施と、外部との交流の推進**」です。玉川小はこれまで保護者や地域など、外部のみなさんと交流する機会を数多く設け、子どもたちは貴重な体験を得ることができました。今年度は、コロナ禍により、ほとんどの交流を中止・延期してきましたが、玉小運動会を企画・運営することを通して、外部との交流の手掛かりを得ることができました。これからは、徐々にですが、事前検温の実施や社会的距離の確保などの感染予防策をとりながら、児童と保護者の交流、児童と地域の交流を進め、あつ玉（玉フェス）や学校農園農業体験学習、伝統文化学習などを、可能な形で進めていきます。また、あらたな地域学習なども取り入れていきます。



第三は、「**感染予防策の実施と、緊急時に柔軟に対応できる学校行事の企画と運営**」です。今後、インフルエンザなどの流行の可能性もあり、学校行事を予定しても延期等をせざる場合もあるかもしれません。しかし、学校で大切なことは「行事を実施した／しない」ではなく、「行事のねらいを達成した／しない」です。そこで、行事の企画段階から準備を進め、万が一の事態が生じて、柔軟に対応できるような用意を整えてまいります。



このような取組ができるのは、玉川小では家庭や地域と学校とが連携し、互いに肩を組んで子どもたちを応援しているからです。今後、厚木市や神奈川県状況によっては、取組の前進や後退も考えざるをえない場面があるかもしれません。そのときは、また、迅速に対応を考え、実施してまいります。

ご家庭と地域のみなさま、今日からまたよろしく願います。

## フェイスシールドを 全員分用意し、授業で活用

表ページでも触れたように、小集団活動を進めるため、児童全員分のフェイスシールドを用意し、今後の授業で活用します。

シールドには名札を貼り、袋に入れて教室の机の脇に掛けておきます。話し合い活動などでは、先生の指示でマスクと一緒に着用し、使用後は消毒等を行います。購入は厚木市教委からの予算を充てました。端は丸く加工されているので、ケガの心配はありません。

どんな活動が展開されるのでしょうか。



フェイスシールドをつけて話し合う教頭と校長

## 保護者ボランティアは 無理せず、できる範囲で

玉川小では放課後清掃や運動会準備などの際に保護者ボランティアを募集し、たくさんの応援を受けました。ありがとうございます。今後も、活動によってはボランティアを募集することもあります。

もし、「募集されたらボランティアに必ず参加しなければならない」などの思いがみなさんの心に浮かびましたら、安心して打ち消してください。そうでなければ、玉小保護者ボランティアは長続きしません。

学校の教育活動は、教職員が行うことが原則です。そして、保護者ボランティアは児童の安全確保の充実等のために設けるものであり、このことにより児童の活動の幅が広がります。つまり、ボランティアの参加がない場合は、児童の活動の幅が狭くなるかもしれませんが、活動自体がなくなることはありません。

保護者ボランティアは強制されるものではなく、自主参加のものです。無理はしないでください。そして、参加可能な日がありましたら、ぜひお申し込みください。お待ちしております。